

聖書日課 『からし種』 2019.10.20-27

<p>20日 (日)</p> <p>申命記 33章</p>	<p>「イスラエルよ、あなたはいかに幸いなことか。あなたのように主に救われた民があるか」(29節)。モーセの仲間への祝福の祈り。約束の地に、モーセは入れないけれども、主により頼みながら歩んだモーセの信仰の言葉。わたしの力、わたしの盾。イスラエルをエジプトから解放してくれた主こそわたしの主であることを心にとめて。</p>
<p>21日 (月)</p> <p>申命記 34章</p>	<p>「主の僕モーセは、主の命令によってモアブの地で死んだ」(5節)。モーセの生涯は、エジプト人の迫害から逃れ、ファラオの王女に助けられ、イスラエルを奴隷から解放させ、約束の地(カナン)に上るとい主に導かれたあゆみだった。その最後の時も主の計画にゆだねたモーセ。私たちの人生も主の守りの中にあることを覚えて歩みたい。</p>
<p>22日 (火)</p> <p>ヨシュア記 1章</p>	<p>「強く、大いに雄々しくあって、わたしの僕モーセが命じた律法をすべて忠実に守り、右にも左にもそれてはならない。そうすれば、あなたはどこに行っても成功する」(7節)。モーセの従者ヨシュアがイスラエルを導く者として主にたてられた。雄々しくあることは、だれかを倒すためではなく、神と人を愛するために雄々しくあれと主は語りかけてくださっている。</p>
<p>23日 (水)</p> <p>ヨシュア記 2章</p>	<p>「あなたたちの神、主こそ、上は天、下は地に至るまで神であられるからです」(11節)。城壁の中に住む遊女ラハブの助けを経てイスラエルの斥候二人は無事にヨシュアのもとに帰った。ラハブはイスラエルの神を万物の神と畏れ、イスラエルの民の命を救った。社会の片隅にいた女性とその家族の命を救い、神の民として迎え入れてくださる神の愛を知る。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.10.20-27

<p>24日 (木)</p> <p>ヨシュア記 3章</p>	<p>「これまで一度も通ったことのない道であるが、あなたたちの行くべき道は分かる」(4節)。約束の地に入る民に、主は、恐れず進むようにと語る。知らない土地、先のわからない旅。それでも主が進むべき道を私たちがわかるように備えてくださっている。ヨシュアたちが主に導かれながら新しいあゆみを進めたように、私たちの進む道はどのようなものだろうか</p>
<p>25日 (金)</p> <p>ヨシュア記 4章</p>	<p>「それは、地上のすべての民が主の御手の力強いことを知るためであり、また、あなたたちが常に、あなたたちの神、主を敬うためである」(24節)。主は大いなる力をイスラエルに示された。イスラエルの民は、主の偉大な御業を語り伝え、主と歩み続けている。私たちは何を手渡されてきたのだろうか。私たちが次世代に手渡せるものは何だろうか。</p>
<p>26日 (土)</p> <p>ヨシュア記 5章</p>	<p>「あなたの足から履物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である」(15節)。モーセはホレブ、ヨシュアはエリコのそばで、同じ言葉で主は語る。それぞれの場所で、今置かれている場所が「聖なる所」であると。今主に遣わされている場所が自分にとって適していないという場所をも主はその場所が主の導くただしい場所だと示してくれているのかもしれない</p>
<p>27日 (日)</p> <p>ヨシュア記 6章</p>	<p>「あなたたち兵士は皆、町の周りを回り…それを六日間続けなさい。…七日目には、町を七周し、祭司たちは角笛を吹き鳴らしなさい」(3、4節)。エリコの堅固な城壁は、武力ではなく、神への信仰の力によって崩された。「神が必要とされるなら必ず与えられる」との信仰に立つと共に、自分が力を尽くすべきことと、神に委ねるべきことを見極める知恵を求めたい。</p>